

## 大垣市民病院における最新血管撮影装置の使用経験

大垣市民病院医療技術部診療検査科中央放射線室 竹中 和幸

最新血管撮影装置の使用経験として以下について述べた。

- ① 当院の血管撮影室の概要
- ② 最新血管撮影装置の特徴
- ③ 実際の臨床画像の呈示

当院には現在4室の血管撮影室があり、循環器科、脳外科、消化器科をはじめとする多くの診療科の検査、インターベンションを行っている。昨年度の使用実績では循環器科

(心臓領域)、消化器科、脳外科、循環器科の末梢治療の順で使用されており、総件数は約3800件となっている。循環器科の使用割合は約85%となっており、主として使用する2部屋の装置が昨年度新たに更新された。

新装置の特徴として操作性と画質の向上が挙げられる。装置本体は5軸の回転軸を組み合わせることにより、幅広い範囲をカバーし、さらにCアーム回転速度の高速化によって術者はストレスなく、検査を行うことができる。また、画質は東芝独自の画像処理アルゴリズム「PureBrain」によりノイズの減少、残像感の低減が図られ、特に透視画像において大幅に向上した。これらはインターベンションの多い当院の血管撮影室において大変有意義な装置の導入となった。

実際に臨床画像として下肢血管、脳血管、冠動脈の画像を旧装置で得られた画像と対比しながら呈示した。いずれの領域の画像も視認性が増していた。

今後も特徴である「使いやすさ、見やすさ」を追求し、術者・患者にとって有用な装置となるよう管理、使用していきたい。